

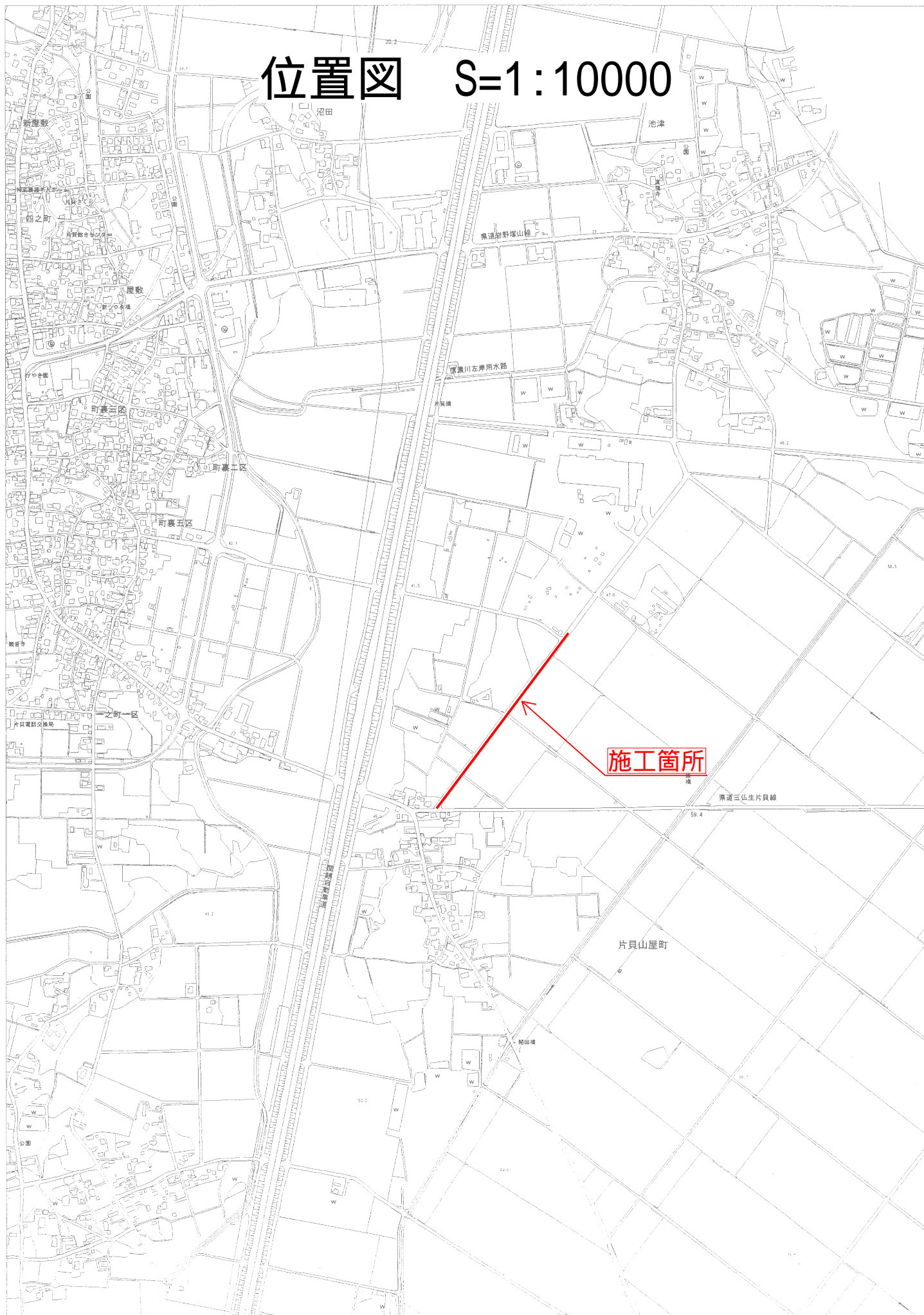
令和 4 年度

道 路 第 41 号

(2) 山 屋 池 津 線 道 路 舗 装 工 事 単 独 実 施 設 計 書

新 潟 県 小 千 谷 市

位置図 S=1:10000



令和 4 年度 (2) 山屋池津線道路舗装工事 実施設計書

道 路 第 41 号		工事日数 110 日間		着手 竣工
実 施 設 計 額		一金 _____ 円		小千谷市 山屋 地内
変 更 設 計 額		一金 _____ 円		
実 施 請 負 額		一金 _____ 円		
変 更 請 負 額		一金 _____ 円		
実 施 設計概要	舗装工（車道） 切削オーバーレイ 区画線工 A=2930m ² A=270m ² L=953m		変 更 設計概要	

新潟県小千谷市

[illegible]

工 事 仕 様 総 括

本工事は、「新潟県土木工事標準仕様書」及び添付の「特記仕様書」により施工すること。

施 工 条 件 総 括 表

下記項目、事項のうち 印欄は、工事施工にあたって制約等をうけることになるので明示する。なお、明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約等が発生したときは、甲(市)と協議し、適切な措置を講ずるものとする。

明 示 項 目	施 工 条 件
○ 工 程 関 係	<div>1. 関連する別途発注工事あり</div> <div>・ 工事名 :</div> <div>・ 予定期間 :</div> <div>2. 施工時期、時間、方法の制限あり</div> <div>・ 時期 :</div> <div>・ 時間 :</div> <div>・ 方法 :</div> <div>3. 関係機関協議による工程条件あり</div> <div>・ 協議内容 :</div> <div>・ 完了予定時期 :</div> <div>4. その他</div>
用 地 関 係	<div>1. 工事用地等の未処理部分あり</div> <div>・ 処理見込期間 :</div> <div>・ 区間 :</div> <div>2. 仮設ヤードの指定等あり</div> <div>・ 場所 :</div> <div>・ 期間 :</div> <div>3. その他</div>
公 害 対 策 関 係	<div>1. 公害防止の制限あり(騒音・振動、排出ガス、粉じん、水質等)</div> <div>・ 施工方法 :</div> <div>・ 作業時間 :</div> <div>2. 家屋等の調査の必要性あり</div> <div>・ 方法 :</div> <div>・ 範囲 :</div> <div>3. その他</div> <div>・</div>
○ 安 全 対 策 関 係	<div>○ 1. 交通安全施設等の指定あり</div> <div>・ 交通誘導員 :</div> <div>・ 交通誘導員B 24人日</div> <div>・ その他施設等 :</div> <div>2. 近接作業制限あり(鉄道、ガス、水道、電気、電話等)</div> <div>・ 内容 :</div> <div>・ 工法制限 :</div> <div>・ 作業時間制限 :</div> <div>3. 発破作業制限あり</div> <div>・ 保安設備及び :</div> <div>・ 保安要員 :</div> <div>・ 防護工 :</div> <div>・ 作業時間制限 :</div> <div>4. 防護施設(落石、雪崩、土砂崩落等)</div> <div>・ 内容 :</div> <div>5. その他</div> <div>・ 交通誘導員については、警察等関係機関との協議により交通処理方法等の変更が生じた場合や現地の状況により、これによりがたい場合は、監督員と協議を行うこと。</div>

工事用道路 関 係	1. 一般道路を搬入路としての使用制限あり ・ 搬入経路 : ・ 期間 : ・ 使用後の処置 :
	2. 一般道路の占用 ・ 期間 : ・ 規制条件 : ・ 時間制限 :
	3. 仮設道路の設置 ・ 工法指定の有無: ・ 用地関係 : ・ 安全施設 : ・ 工事完了後の : 存置または撤去
	4. その他 ・
仮設備関係	1. 仮設備の指定あり ・
	2. 仮設備の条件指定あり ・
	3. 仮設構造物の転用、兼用あり ・ 工種 : ・ 内容 :
	4. イメージアップあり ・
	5. その他 ・
○ 残土・産業 廃棄物関係	○ 別紙「建設副産物特記仕様書」のとおり
工事支障 物 件 等	1. 占用支障物件あり(電気、電話、水道、ガス等) ・ 内容 : ・ 移設、撤去、 防護方法等 : ・ 時期 :
	2. 占用物件重複施工あり ・ 内容 :
	3. その他
排 水 工 (濁水処理含)	1. 濁水、湧水処理等の特別な対策あり ・ 内容 :
薬液注入 関 係	1. 薬液注入工法あり
そ の 他	1. 現場発生材あり。 ・ 品名 : ・ 納入場所 :
	2. 支給材及び貸与品あり ・ 品名 : ・ 引渡場所 :
	3. 品質証明の必要あり
	4. その他

<p>○ 排出ガス 対 策 型 建設機械</p>	<p>○</p> <p>1. 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付建設省経機発第249号)」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。</p> <p>排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着(黒煙浄化装置付)することで、排出ガス対策方建設機械と同等とみなす。</p> <p>ただし、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。</p> <p>排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。</p> <table border="1" data-bbox="429 454 1487 1128"> <thead> <tr> <th>機 種</th><th>備 考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 一般工事用建設機械 ・バックホウ ・バックホウトラクタショベル(車輪式) ・ブルドーザ ・発動発電機(可搬式) ・空気圧縮機(可搬式) ・油圧ユニット 以下に示す基礎工事用機会のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの 油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機 油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機 リバースサーキュレーションドリル、アースドリル 地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機 ・ロードローラ、タイヤローラ・振動ローラ ・ホイールクレーン </td><td> ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上 260kw以下)を搭載した建設機械に限る。 </td></tr> </tbody> </table>	機 種	備 考	一般工事用建設機械 ・バックホウ ・バックホウトラクタショベル(車輪式) ・ブルドーザ ・発動発電機(可搬式) ・空気圧縮機(可搬式) ・油圧ユニット 以下に示す基礎工事用機会のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの 油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機 油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機 リバースサーキュレーションドリル、アースドリル 地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機 ・ロードローラ、タイヤローラ・振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上 260kw以下)を搭載した建設機械に限る。
機 種	備 考				
一般工事用建設機械 ・バックホウ ・バックホウトラクタショベル(車輪式) ・ブルドーザ ・発動発電機(可搬式) ・空気圧縮機(可搬式) ・油圧ユニット 以下に示す基礎工事用機会のうち、ベスマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの 油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機 油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機 リバースサーキュレーションドリル、アースドリル 地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機 ・ロードローラ、タイヤローラ・振動ローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上 260kw以下)を搭載した建設機械に限る。				
<p>○ 施工方法等</p>	<p>○ ・施工条件総括表、図面、仕様書、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書に特別に定める場合を除き、仮設、施工方法その他工事目的物を完成するために必要な手段は、請負者の責任において定める。(建設工事請負基準約款第1条第3項による)</p>				

建設副産物特記仕様書

1.再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再生資材名	規格	使用箇所	備考

2.建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備考

3.建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記により精算している。

搬出先			
搬出先地名			
連絡先			
設計運搬距離			
受入時間			
設計受入費用			
仮置場所の有無			
備考			

建設発生土改良土プラントへ土砂を運搬処理する場合、上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。

なお、発注者が想定している施設と受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものではない事項についてはこの限りでない。

注) 受入先が建設発生土改良プラントの場合、搬出先欄には「プラント」と記載し、搬出先地名、連絡先の欄は記載しない。

4.建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとし精算している。

搬出する廃棄物名		アスファルト廃材	
設計運搬距離		L=0.6km	
受入時間			
設計受入費用(tあたり)			
備考			

上記は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と受注者の提示する施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5.舗装版切断時の濁水搬出

工事の施工により発生する舗装版切断濁水は、下記の場所に搬出するものとし積算する。

設計運搬距離			
受入時間			
設計受入費用			
備考			

上記は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と受注者の提示する施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

6.建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

7.自ら産業廃棄物を運搬・搬出する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

8.協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに発注者に報告し、協議すること。